

令和3年度 京都府立東舞鶴高等学校浮島分校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>☆地域を支える勤労青少年を育成するとともに、様々な入学動機や背景・事情を抱える多様な生徒の就・修学、進学・就職を支援する夜間定時制高校としての役割を果たす。</p> <p>1 日々の授業を大切にするとともに、学習指導・進路指導・生徒指導の3つを一体的にとらえ、きめ細かい丁寧な指導を行うことにより学力を向上させ社会を生き抜く力を身につける。</p> <p>2 生徒一人一人が家庭・地域社会で認められ、学校生活の様々な場で成就感・達成感を持てるように導く。</p> <p>3 教師と生徒が協働し、基本的な規範意識と倫理観、公共心や思いやりなど、人間性・社会性を育むとともに、安心・安全な学校にする。</p>	<p>（成果）</p> <p>1 基礎基本の徹底のための教材精選、追認指導の方法の改善などが、学習内容の定着、単位認定の促進につながった。</p> <p>2 授業支援者や他教科教員の授業サポートによる生徒の積極的な授業参加、ICT機器の整備、活用により、主体的・対話的な学び実施へのステップを踏むことができた。</p> <p>3 登校時の検温や健康観察を通じた生活の様子の確認、気になる生徒についてきめ細かな保護者との連携などにより、就修学支援が深まった。</p> <p>4 生徒が積極的に行事に参加し、生徒会が主体的に行事に取り組むことができた。</p> <p>5 コロナ禍における人権に関わる現代的課題について学ぶ機会を設定し、生徒たちの意識を高めることができた。</p> <p>6 低学年からのライフプラン作成や適性検査への取組などを通じて、生徒一人ひとりの進路希望に応じた進路指導が深まった。</p> <p>（課題）</p> <p>1 主体的な学習態度の育成</p> <p>2 達成感や自己肯定感・自己有用感が実感できるように学習指導の工夫・改善</p> <p>3 生徒が相談しやすい環境づくり</p> <p>4 人権感覚や規範意識の向上を目指す取組</p> <p>5 ICT活用による授業改善、研修の推進</p> <p>6 卒業後の進路を見据えた進路指導の充実</p> <p>7 保護者との連携による課題解決</p> <p>8 生徒各々に応じた適切な支援の充実</p>	<p>重点1 基礎・基本を重視した学習指導の充実</p> <p>(1) 学びに向かう力を高めるように学習指導の工夫・改善を図る。</p> <p>(2) 一人一人の生徒の個別最適な学びの実現を図る。</p> <p>(3) ICT機器の効果的活用を図る。</p> <p>重点2 コミュニケーションを大切にした生徒指導の充実</p> <p>(1) 生徒の内面や生活状況等の把握に裏付けられた指導・支援を行い、好ましい態度を育成する。</p> <p>(2) 人権感覚や規範意識を高め、自他を尊重する態度を育成する。</p> <p>重点3 生徒一人一人のニーズに対応する教育活動の推進</p> <p>(1) コロナ禍を踏まえ、卒業後の進路を見据えたキャリア教育のための個別指導を行う。</p> <p>(2) 保護者との連絡を密にし、保護者と連携して課題解決にあたる。</p> <p>(3) 生徒の背後にある様々な環境の改善に、可能な限り努める。</p> <p>重点4 安心・安全で前向きな学校づくりの推進</p> <p>(1) コロナ禍を踏まえ、個々の生徒の健康管理、良好な校内衛生環境の実現を図る。</p> <p>(2) 生徒の主体性を高め、学校生活の充実に寄与するように特別活動を実施する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
基礎・基本を重視した学習指導の充実	学びに向かう力を高めるように学習指導の工夫・改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数クラスの特色を生かし、授業において生徒と対話する機会を多く取り入れることにより、生徒自身が学ぶ意欲を高められる学習指導を行う。 <具体的方法> ティームティーチングの積極的導入 ○生徒の興味関心のある内容を引用することにより、生徒の自ら学ぶ姿勢を高められるように授業を進める。 <具体的方法> 新聞・ニュース等の積極的活用 	B	B	職員としての役割を十分に果たすことにより、生徒自身が学ぶ意欲を高められる学習指導の工夫・改善を図る。
	一人一人の生徒の個別最適な学びの実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の実態に合った授業展開をするための教材研究を進め、難解な内容についても理解しやすいように教える。 ○授業中の生徒観察に重点を置き、生徒の理解状況をフィードバックさせながら柔軟な指導を行う。 <具体的方法> 学力診断テスト・定期考査等による学力分析と教材研究研修会 	B	B	
	ICT機器の効果的活用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○図表等視覚を重視する内容は、プロジェクターを積極的に活用し新しく配備された生徒用タブレットの使用法を研究する。 <具体的方法> ICT教育の教材研究研修会 	A	A	
コミュニケーションを大切にした生徒指導の充実	生徒の内面や生活状況等を把握に裏付けられた指導・支援を行い、好ましい態度を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○「あいさつの励行・話を聞く姿勢」を重点的に指導し、社会において人間関係を円滑に構築できる人格形成を行う。 <具体的方法> 登下校時のあいさつ運動、各種講演会等の内容充実 ○生徒とのコミュニケーションがとりやすい雰囲気を大切にし、指導内容の充実を図る。 <具体的方法> 学校行事における生徒の主体的活動の充実 	B	B	生徒の生活状況等を把握に裏付けられた指導・支援を行い、好ましい態度を育成する。
	人権感覚や規範意識を高め、自他を尊重する態度を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○普段より生徒の状況把握を綿密に行い、いじめにつながる言動等に対処する教員側の姿勢を示すことで、生徒の人権意識を高める。 <具体的方法> 生活実態調査・いじめ調査の実施と分析および研修会 ○「時間と提出物を守る」ことを繰り返し指導していくなかで、自律できる人格形成を行う。 <具体的方法> 遅刻指導等の充実、各教科における課題提出指導の充実 	B	B	
			B	B	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
生徒一人ひとりのニーズに対応する教育活動の推進	コロナ禍を踏まえ、卒業後の進路を見据えたキャリア教育のための個別指導を行う。	○日常的に生徒の就業状況を把握し、将来の展望を話題にする。また、その実現に向けてのキャリア教育を行う。 <具体的方法> 進路希望調査の実施と分析研修、キャリア教育講演会等の実施	A	A	総合的な学習の時間等を活用してキャリア教育を進めることができ、卒業予定者の全員が個々に応じた進路を決定した。1～3年のキャリア学習については、ガイダンスや説明会の実施と個々への指導を進めた。
	保護者との連絡を密にし、保護者と連携して課題解決にあたる。	○生徒の困難な要素に対して保護者との連携を密にし、効果的な取り組みを進める。 <具体的方法> 進路検討会議の実施および生徒・保護者との進路に関する面談	B	B	
	生徒の背後にある様々な環境の改善に、可能な限り努める。	○生徒が自己の環境を認識し改善する力を伸ばすため、自ら考え行動出来るように支援をする。 <具体的方法> 進路希望実現のための進路学習の充実	C	B	
安心・安全で前向きな学校づくりの推進	コロナ禍を踏まえ、個々の生徒の健康管理、良好な校内衛生環境の実現を図る。	○校内美化と衛生と健康管理を一体として、常に清潔な環境と健康な生活ができるよう指導していく。 <具体的方法> 校内清掃体制の確立と保健だより等による衛生意識の向上推進	B	B	毎週の清掃で校内の清潔な環境が保たれている。保健だより等で健康管理や衛生意識について啓発している。コロナ禍であってもできるだけ中止せず、かつ生徒の実態に即して工夫した行事を行えた。
	生徒の主体性を高め、学校生活の充実に寄与するように特別活動を実施する。	○学校の特色を活かした行事を行うことで、「この学校で良かった」と思えるような取り組みを進める。 <具体的方法> 各種特別活動における生徒の主体的活動の充実	B	B	

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次年度より一人一台端末を導入することになるが、生徒の家庭では高額な物品を購入することになるので、端末の購入や運用について十分な説明を行っていく必要がある。 ○ 今年度卒業生の進路決定状況は良好であった。今後も少人数で仲の良い人間関係の中で学校生活を充実させ、生徒が更に自信を持つことのできる教育活動を期待する。 ○ 生徒が落ち着いて学校生活を送っており校内もきれいである。生徒が高等学校卒業を目標に努力している表れであると思うので、今後も学校からの行き届いたサポートを実施してもらいたい。 ○ 「教育活動に関するアンケート」では、生徒は「学力向上の取組」や「わかりよい授業」に関して肯定的回答の割合が高いにもかかわらず、「生徒の授業姿勢」についての肯定的回答の割合が低い結果となっている。これらの回答結果を授業改善に役立ててほしい。 ○ 学校公開やホームページの更新など、学校からの情報発信を強化することも重要な取組である。
----------------------------------	--

<p>次年度に向けた改善の 方向性</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 一人一台端末の導入年度であるので、端末購入の段階から生徒ならびに保護者への丁寧な説明を実施するとともに、すべての教科においてICT機器を活用した教材や指導方法について探究を継続し深化させる。 2 生徒が、主体的で対話的な学習活動によってより深い内容を学ぶことができるよう、校内外の研修会あるいは研究授業等によって授業改善に努める。 3 在学している生徒が、原級留置、休学、中途退学などの結果にならないよう、ケース会議、教育相談会議、生徒指導会議等を有効に運用し、生徒自身もつ課題あるいは生徒の環境に存在する課題等を解決、改善に導いていく。 4 卒業後の進路を保障するためには、基礎学力の充実とキャリア教育の充実が必要不可欠である。基礎学力の充実については教務部が、キャリア教育の充実については進路指導部が中心となり、計画的、組織的な取組を実施する。 5 いじめ事象や差別事象のない環境の中で生徒同士が良好な人間関係を築き、充実した学校生活を送ることによって社会性を身につけることができるよう、人権教育を充実させるとともに学校行事の工夫によって生徒同士が交流する機会を充実させる。 6 様々な広報媒体を活用して情報を発信し、学校の教育活動について地域からの理解と支援を得られるように努める。
---------------------------	---